

(様式2)

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

高松市立古高松中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
6学級 184名	6学級 195名	5学級 173名	4学級 12名	21学級 564名

○教員数 37名

◆学校の特色

本校は、校訓「自立・友愛」、学校スローガン「支えよう仲間を 高めよう自らを」のもと、生徒会役員が中心となって、あいさつ運動やボランティア清掃などに取り組む、明るく活気のある学校である。以前には生徒指導が困難な時期もあり、教職員は、生徒の問題行動にチームで取り組むとともに、授業の成立と学力の定着に向けて相互での授業参観など授業改善にも力を入れてきた。その結果、現在は地域の方から「生徒がよくあいさつしてくれる」とほめていただくことも多くなっている。また、学習面では、これまでに取り組んだ、「すっきり導入」「しっかり展開」「はっきり結論」の流れによる一時間完結型の学習指導過程や、「ユニバーサルデザイン」などの工夫の成果として、生徒は生き生きと学習に取り組んでいる。平成30年度より本事業の指定を受け、「訊き合う活動」「振り返り活動」の実践を進めており、多くの教科で生徒相互の学び合いが日常的に行われている。

II 研究主題等

研究主題

言語を介して能動的に関わる力の育成

— 「訊き合う活動」・「振り返り活動」の工夫—

◆研究主題設定の理由

新学習指導要領において示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、本校では、話し合い活動に主眼をおいて授業改善に取り組んできた。平成29年度の生徒の意識調査では、「話し合い活動によって学習内容が広がったり深まったりしている」と考えている生徒が少ないことが明らかになった。話し合い活動を行っても、受け身で友人が発表しているのをぼんやりと聞いている生徒や自分の意見を一方的に主張する生徒も少なからず見られた。そこで、話し手と訊き手が積極的に関わり合い、友人の意見から気付きを得たり、自分の考えを振り返ることができるような話し合い活動をめざして、言語を介して周囲に対し能動的に関わる力の育成を研究主題とすることとした。また、話し合い活動における訊き手の役割を明確にするため、活動の呼び名を「訊き合う活動」とした。あわせて、授業で生徒が何を学び、どのような変容があったかを実感できるための工夫として、「振り返り活動」を取り入れることとした。

◆研究内容及び方法

- キーワード
「訊き合う活動」・「振り返り活動」
- 「訊き合う活動」について
「訊き合う活動」とは、一方的に発言するだけの交流活動とは異なり、発言した内容に関して「確認」「質問」を繰り返す、双方向の交流活動である。
- 「振り返り活動」について
「振り返り活動」とは、従来の学習内容の振り返りを超えて、学びの過程を振り返る活動である。

平成30年度には、「訊き合う活動」・「振り返り活動」を実践するにあたり、ワークショップを行って全教員がイメージを共有したうえで、一人一回の校内公開授業を行い、相互に参観しあった。また、令和元年度には、ワークショップで「訊き合う活動」・「振り返り活動」のチェックポイントの共通理解を図り、校内での公開授業では相互の参観に加えて動画による記録を行い、後日の研究協議では、その動画をもとに参観できなかった教員も含めての協議を行った。このような取組と「10の指標」の分析を通して、次の二点が課題としてあげられた。

- 教科の特性を生かした「訊き合う活動」・「振り返り活動」を考える必要がある
- 生徒の質問や確認などの対話スキルを高めていく必要がある

そこで、本年度の研究内容は次の二点とした。

- 教科部会において、教科の特性を生かした「訊き合う活動」・「振り返り活動」についての研究を進め、計画的・系統的に実践すること
- 対話スキルを高める手法として1年生を中心にピアサポート活動を実施すること

具体的な研究スケジュールは次の表のとおりである。

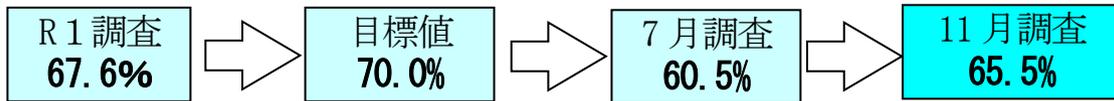
	教科部会における研究	ピアサポート活動 (2・3年の異教科グループ による公開授業に向けた 取組を含む)	成果の検証
1学期	○各教科での「訊き合う活動」・「振り返り活動」の持ち方についての研究	○ピアサポート活動計画の確認 ○ピアサポート活動のねらいや育てたい力の確認 ○公開授業に向けたグループでのブレインストーミング	○「10の指標」項目設定 ○アンケートの実施及び結果・分析 ○「10の指標」目標値設定
2学期	○各自が1回ずつ校内での公開授業を実施	○指導案検討 ○事前授業 ○アクティブ・ラーニング公開授業 ○公開授業の振り返り	○アンケートの実施及び結果分析(「10の指標」目標値との比較)
3学期	○教科の特性を生かした「訊き合う活動」・「振り返り活動」についてのまとめ	○本年度のピアサポート活動実践のまとめ	○現職教育の振り返りシーートの分析

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組 1 話し合う活動

1 (生徒質問紙) 授業で、自分の考え方を発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。

指標 「①はい+②どちらかといえばはい」の合計



1 (生徒質問紙) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

指標 「①はい」のみ



指標の達成に向けた実践

〈実践1〉各教科の特徴に応じた「話し合う活動」を取り入れた授業

昨年度より、「確認」・「質問」という双方向のコミュニケーションを意識した「話し合う活動」を全教科の授業の中で取り入れた。本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、年度当初は活動を実施できなかったが、各教科で「話し合う活動」の持ち方について話し合い、それをもとに2学期に入ってから、話し合う活動が効果的な場面を厳選し、時間も15分以内に限定して活動を実施した。

3年生の保健体育の授業では、感染症予防策を3つの観点で分類し、ランキングさせたり、お互いの考えを可視化できるようにホワイトボードや付箋を用いたりすることで、個々の考えの違いが明確になり、なぜそう考えたのかを知りたいという意欲が高まることで、「話し合う」必然性がある活動が実施できた。(資料1)



第3学年4、5組 保健体育科学学習指導案	
1 単元(題材)名 感染症の予防	
2 本時の学習指導	
(1) 目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防の対策について、互いの考えを伝え合い、予防策を分類することができる。 ・今後、未知なる感染症が出現したときの最善の予防策について考えることができる 	
(2) 学習指導過程	
学習内容及び活動	指導上の留意点
1 前時の振り返りをする。 ・感染症の予防には3つあることを確認する。	・教科書にある感染症を例に何が感染源対策で、何が感染経路を遮断することで、何が主体の抵抗力を高めている対策なのかを掲示カードを使って確認する。
学習課題 未知なる感染症が出現したときに有効な感染予防策について考えよう	
2 自分が考える、感染症の予防策について、調べてきたことを発表し、分類する。【話し合う活動】 ・付箋紙に書き、3つの対策に分類していく。	・グループに分かれて話し合う。 ・机は合わすが、互いの距離に気をつけて話し合いをさせる。 ・掲示ボードを使ってまとめさせる。 ・分類に困っている場合は他の班に意見を求め、共有していく。
3 班ごとに、有効な予防策とその順位及びその根拠をまとめる。	・いろいろな意見が出た中で、最善と考える予防策について、順位を付け、その根拠をまとめさせる。
4 班ごとに、最善と考える予防策の順位とその根拠について、まとめたことを発表する。	・ホワイトボードに記入したものを黒板に掲示し、説明を加えながら発表する。 ・他の班の発表で「なるほど」と思った内容についてまとめさせる。
5 他の班の予防策を聞き、「私たちにできる最善の予防策」をワークシートにまとめる。【振り返り活動】	・今回のような、未知なる感染症の流行が起きた時、何を優先して実施すれば良いかについて考える。できれば、数名発表させる。
6 未知なる感染症出現の時に、自分やその家族がとるべき予防策について考える。	・「免疫力は15歳までに決まる」ことを知らせ、今がととも大切な時期であることに気づかせたい。 ・「自分は発症していないが、感染しているかも知れない」という想定で行動することの大切さを理解させたい。

資料1 保健体育科学学習指導案

〈実践2〉ピアサポート活動の実施

R元年度の実践では、「質問したり確認したりしたい」という意欲はあっても、「どのような聴き方をすれば良いのかわからない」という、生徒のコミュニケーションスキルの課題が明らかになった。

そこで、生徒相互の関係性やスキルを高めるために、ピアサポート活動を各学年団で実施した。「より良い聴き方」や「一方通行と双方向のコミュニケーション」など、交流する上での一つ一つのスキルを分解して、グループワークでその必要性を理解させるとともに、日頃意識できるように学級担任が中心になって声かけをしながらクラスの雰囲気作りを行った。

1年生の学級活動の授業では、「伝わりやすい話し方」についてのグループワークのあとで、振り返りシートを使って自己評価を行い、参観の指導主事から、「目的意識を明確にもたせた話し合いとともに、観点を示した振り返りシートを使って自己の変容を評価し、改善につなげることができる。」とのコメントをいただいた。(資料2)

学習内容及び学習活動	教師の支援活動及び指導上の留意点
1 前時の振り返りを行う。 ・ 一方通行と双方のコミュニケーションについて	○ 気持ちの良い挨拶からスタートさせる。 ○ 上手くいったことや困ったことを発表させる。 ○ 人に言葉で伝えることの難しさを再認識させる。
2 本時のピアサポート活動を知る。	○ 学級の生活班を組ませる。 伝わりやすい話し方と協働の大切さに気付こう。 ○ 普段の学校での自分たちの容姿を振り返らせる。 ・ マスクの存在に気づかせ、幅広い面での利便さ不便さを発表させる。(会話をするうえで。)
3 グループワークを行う。 (1) 「はあ。」当てゲームを行う。 1種類目：身振り手振りなし 2種類目：身振り手振りあり ① なんぞの「はあ」 ② 力をためる「はあ」 ③ ぼうぜんの「はあ」 ④ 感心の「はあ」 ⑤ 怒りの「はあ」 ⑥ とぼけ「はあ」 ⑦ おどろきの「はあ」 ⑧ 失恋の「はあ」 (2) 部屋当てゲームを行う。 ① 説明 課題 先生ばかりが住んでいるマンションがある。どの部屋に住んでいるのかを当てる。班員で話し合っ、図に先生の名前を書き入れる。 ② グループ活動 ③ 解答発表	○ 1グループ3～4人で行わせる。 ○ 1人が話し、残りの人がどの「はあ。」を行ったのかを班で話し合っ決めて、当てさせる。 ○ 2種類行わせ、活動を活性化させる言葉かけを行う。 ○ マスクをしながら声のトーンや目や顔の動きで伝えることの難しさに気付かせる。 ○ 恥ずかしさが出ると、ゲームに面白さが出ないため、堂々と喋ることを伝える。 ○ どんな所に難しさを感じたのかを発表させ、クラスで共有させる。身振り手振りを使うことによって、相手への伝わり方に変化があったか問う。 ○ ゲームの説明を行う。 ・ 封筒に入っているカードを裏返しにして、班員に配る。 ・ 1人が喋っているときは、口を挟んではいけない。 ・ 1つのカードにつき、2回まで喋って良い。 ・ 聞き直すことは禁止とする。 ・ メモをとってもよい。 ○ 班員で協力して行い、意見交換を行わせる。 ○ 相手の意見を真向から否定する言い方ではなく、傷つけない言葉を選んで話させる。 ○ 机間巡視をし、グループの動きや話に入れていない生徒の支援を行う。 ○ 自分の班の解答が合っているか確認させる。
4 本時のまとめをする。	○ どのような話し方が、相手にとって分かりやすい話し方なのかを気付かせる。 ○ ワークシートにて、本時の振り返りを行わせる。 ○ 今後の学校生活や私生活での話し方や協働の大切さを語り、今後に生かさせる。

資料2 学級活動学習指導案

〈実践3〉大学教員による指導を基にした取り組み

昨年度から、香川大学教育学部の岡田先生に教職員研修でのご指導をお願いしている。10月22日に校内で実施した研究授業では、後日、次のようなご指導をいただいた。(資料3)

- 「訊き合う力」をつけるためには、①話し合いの流れの可視化、②場の設定、③質問時の観点・話形を示す、などを積極的に取り入れていく必要がある。
- 訊き合うためにはまず、誰かが意見を述べる必要があり、「話す」⇔「訊く」のサイクルを少しずつ確立するようにしていけば良い。

研究授業の様子について、伝えようとする意思が確実に見え、話し合える土壌も定着してきており、これが「主体的・対話的で深い学び」に結びつく効果的なものであると言っていた。

やり取りする力

必要な力	内容
明確化	お互いが理解できるように、曖昧な部分をはっきりさせる。
確認	相手の言いたいことや理解の仕方確かめる。
軌道修正	話題の内容や範囲が逸れないように修正する。
探り	話題に関して相手が知っていることを探る。
活性化	話し合いが活発になるように積極的に働きかける。
対応	相手の知識や経験にあうように、自分の意見を調整する。
マナー	話し合いの場面でルールを守り、他者に配慮する。

丸野(2006)をもとに作成

訊き合いをどう始めたら...?

訊くためには

- ・誰かが意見を述べる
- ・言いたいことをもつ

⇒最初は「話す」「意見を言う」から

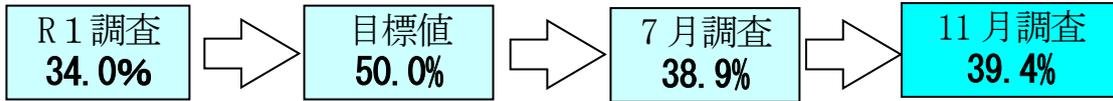
「話す」→「訊く」のサイクルの問題

資料3 岡田先生の研修資料

◆指標設定と達成に向けた取組2 振り返り活動

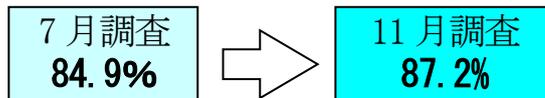
2 (生徒質問紙) 授業で学習したことを振り返ることで、新しい気付きや発見がありますか。

指標 「①はい」のみ



2 (生徒質問紙) 授業で学習したことを振り返ることで、自分の進歩に気付くことができますか

指標 「①はい+②どちらかといえばはい」の合計



指標の達成に向けた実践

〈実践1〉「振り返り活動」の意義と取り組み方の共通理解を図る研修

本年度はコロナ禍で「訊き合う活動」の実施が難しいため、振り返り活動を重点的に行おうという考えのもと、6月の現職教育では、「振り返り活動とは？」というタイトルで全教員で議論を行った。また、担当からのミニワークショップでは、「振り返り」には種類があり、それを使い分ける必要性があることや、その中で、「問題解決の過程」を振り返る力は、教科を越え今後の生きる力としてとても大切であり、育成する必要があることなどを説明し、共通理解を図るとともに、教科ごとにどのような振り返り活動の行い方があるかを考えてもらった。(資料4)

これを受けて、各教科で振り返りシートやポートフォリオ等の実践を進めた。(資料5)

・「振り返り学習」とは
「振り返り」の3つのレベル

- レベル1 : 「知識陳述・伝達・再生」…(理解内容の確認)
「今日わかったことは、何？」
- レベル2 : 「知識構築・再構成」…(問題解決過程)
「今日どんなことを考えて、気付いたものはどんなもの？」
- レベル3 : 「知識創造」…(創造・発見的)
「今日学んだことからどんなことができそう？」「今日考えたことから次の疑問はある？」

・「振り返り活動」の行い方

メタ認知を引き出す発問の工夫

- 「理解に対する問い」…この問題にはどういう意味があるのか？
- 「関連に関する問い」…この問題は既知の問題とどこが同じでどこが違うのか？
- 「方略に対する問い」…この問題を解くために適した方法はあるか？何故適しているといえるのか？
- 「振り返りについての問い」…その解き方が適切だったかどうか、他の解き方があるか、何故解けなかったのか

資料4 ミニワークショップの資料

①	9/11	グラフをいこう 問題解決の ための過程を意識して振り返り	私はよくグラフの直線がずれることがあるので、点をとるときは、点と点を離したいと思いました。まずは切片をとるとわかりやすいことが分かりました。 【問題解決のための過程を意識した振り返り】
②	7/6	11/10の解 思考の 再認知的な 発見	人に教えるときって頭の中のなんとなくやっけることに理由をつけて分かりやすく説明しなきゃなっていました。 【「訊き合う活動」における自己の説明へのメタ認知】
③	9/3	表の特徴をいこう	今日は式から表をつくりました。表をつくってわかったのはx=0のときy=ax+bの「b」になることが分かりました。なので表をつくるときはまずx=0の下に「b」の値をかいて次にx=1を代入してyを求めて、変化の割合を求めるのが一番はやりなと思いました。
	9/10	グラフの特徴をいこう	今日、グラフの特徴について学びました。y=ax+bのbは切片ということを知りました。切片はy軸上のyの値が切片であることを知り、9/3のふり返りで、x=0のときyはbになるとかかっていたので、ぼくは前から切片の見つけ方をかかいていて、見返すといふふり返りだなと思いました。 【自分の知識の再構成、知識創造につながる気付き】

資料5 生徒が「振り返り活動」で書いたコメントとその分析(2年数学)

〈実践2〉活動のレベルアップを図るための具体的な発問の例示と授業

生徒の「振り返り」をより発展させるために、8月の現職教育では、次のような文言を例示した。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| ① どのようなことに気付きましたか。 | ② どこでどのようにつまづきましたか。 |
| ③ 授業の中で考えが変わったところはどこですか。 | ④ さらに考えてみたいことはありますか。 |
| ⑤ 友達から学んだことはありますか。 | |

10月の校内研究授業では、学級活動（ピアサポート）の授業で、授業時間の自分の取組についての自己評価と班のメンバーでの相互評価、感想を書ける振り返りシートを取り入れた。感想において深い振り返りができている生徒に感想を発表させ、キーワードを板書することで、振り返りの深まりをねらった。（資料6）

マスクをしていると思いが伝わりにくいから、声の調子を変えたり身振り手振りを加えたりする工夫が必要だと気が付きました。



＜今日のテーマ＞

組 番 氏名

1 あなたはこの時間にどう感じましたか？当てる数字に○をしましょう。

① 自分の考えを積極的に言うことができたか？

言えた	4	3	2	1	言えなかった
-----	---	---	---	---	--------

② 班のみんなの意見を聞いてもらえましたか？

聞いてもらった	4	3	2	1	聞いてもらえなかった
---------	---	---	---	---	------------

③ 班のみんなの意見をよく聴くことができたか？

聴くことができた	4	3	2	1	聴くことができなかった
----------	---	---	---	---	-------------

④ 班のみんなと協力して活動できましたか？

活動できた	4	3	2	1	活動できなかった
-------	---	---	---	---	----------

2 次の質問に当てはまるのは誰の中で誰ですか？（自分ごとと思うときは自分の名前を）

1 たくさん意見を出したのは誰ですか？		
2 良い考えを出した人は誰ですか？		
3 よく自分の意見を聞いてくれた人は誰ですか？		
4 自分の意見を言いやすくしてくれた人は誰ですか？		

3 今日の授業を通して感じたことを書きましょう。

資料6 学級活動の授業での振り返りシート

〈実践3〉大学教員による指導を基にした取り組み

香川大学教育学部の岡田先生から「振り返り活動」についても次のようなご指導をいただいた。

○振り返り活動とは学習内容に関する振り返りを越え、学びの過程に目を向けることである。学びの過程に目を向けるとは、

「今日は〇〇のことがわかりました」



「最初は〇〇と思っていたけど、グループで違う意見があったので、〇〇だけでなく△△も大事だと思いました」

というように、授業の流れの中での思考の変化を自分で振り返る活動であり、これが自己調整力の育成に繋がる。

○「振り返る力」をつけるためには、①メタ認知を意識した発問を行う、②話し合い活動時に突っ込みを入れて深める、③生徒の発言を繰り返し使う、等を積極的に取り入れていく必要がある。また、振り返りは共有することで再認知されたり、より良い方法を見つけることができるため、振り返りを共有することができるような、教室の環境作りが非常に重要であることをご指導いただいた。

IV 研究の成果と課題

R2 年度授業改善のためのアンケートを7月と11月に実施した。その結果をもとに、成果と課題をまとめた。

◆「訊き合う活動」に関する成果と課題

—成果—

生徒アンケートでは、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「自分の考えを発表する機会では工夫して発表している」の2項目でそれぞれ肯定的回答の割合が92.8→96.6、60.5→65.6と増加しており、傾聴スキルや自分の意見を伝えるスキルを一人ひとりが意識できるようになってきていることが窺える。「ピアサポート活動」の一環でソーシャルスキルについても学習したことが要因として考えられる。

—課題—

教員アンケートでは「訊き合う活動を通じて、生徒の考えを深めたり、広げたりすることができているか」の項目で肯定的回答の割合が29.4→84.9と大きく増加しているが、一方で生徒アンケートの「話し合う活動で自分の考えを広げたり深めたりすることができている」の肯定的回答の割合は80.8→78.5と減少している。最長15分の活動時間の中で各教員は工夫して発問し、考えを深めようとしているが、生徒からは「もう少し時間がほしい」「話し合いをしてもまだ疑問が残ってしまった」といった声が聞かれた。活動に対する意欲の表れともとれるが、活動の設定の仕方や時間確保等は今後も考えていく必要がある。

◆「振り返り活動」に関する成果と課題

—成果—

教員アンケートでは、「生徒が自己の変容について意識できる活動になっているか」という項目の肯定的回答は58.8→63.7と増加した。教員研修や、岡田先生の講話などで、「振り返り活動」とはいったい何なのかを改めて学ぶ機会を持ち、そこから「思考の過程をふりかえる」ということを共通認識して取り組むことができた。実際にポートフォリオを用いて生徒の考えの変容を残していく教員も以前と比べて増えている。

生徒アンケートでは、「学習したことを振り返ることで、新しい気付きや発見がある。」「自分の進歩に気付くことがある。」の2項目でそれぞれ、82.7→87.4、84.9→87.2と増加しており、振り返る価値について生徒が実感できている。今後も継続して行うことで更なる向上を目指したい。

—課題—

コロナ禍で短縮授業が多かったこともあり、「振り返り活動」の時間が取りにくかった教科もあった。継続して振り返り活動を行っている教員との差が広がっている。

「振り返り活動を通じて生徒に理解を深めたり、新たな気付きや発見をさせたりすることができているか」の項目は7月と11月で数値の変化が見られなかった。振り返りをより深めるための工夫を今後も模索する必要がある。

—成果や課題から見える今後の展望—

- 上述の「訊き合う活動」で見られた教員と生徒の意識の差を今後、埋めていく必要がある。生徒がお互いに訊き合う中で「深い学び」を実感して成長していけるよう、発問の工夫やそれに応じた時間の確保とともに、単元全体を見通してどこで訊き合う活動を行うのが効果的なのかを一層吟味したい。
- 現在、振り返り活動の一環で取り入れているポートフォリオは、次年度から始まる新しい評価の3観点の内、「主体的に学習に取り組む態度」の分野でも活用が可能であるように思われる。今後、評価のあり方についても研究を深め、更なる「振り返る力」の育成に努めたい。

1 研究主題

言語を介して能動的に関わる力の育成

－「話し合う活動」・「振り返り活動」の工夫－

2 研究の具体

「主体的・対話的で深い学び」の実現

「話し合う活動」の充実

・思考ツールを活用して深める



・教材を工夫して交流を深める

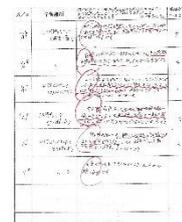


・ホワイトボードを利用して意見を深める



「振り返り活動」の充実

・日々の授業内で「振り返る時間」を設定



ポートフォリオ
2年数学

・思考の過程を意識した振り返りを行う



振り返りの振り返り

「9/3の振り返りで僕は今日の学習内容を気付いていて、見返すといい振り返りだと思いました。」

「ピアサポート活動」の充実 (話し合う活動・振り返り活動を行うための対話スキルを高める)

・「相手に伝わりやすい話し方について」

・「一方通行と双方向のコミュニケーション」



3 研究の検証および改善の手立て

○ 「振り返り活動」を積極的に行った結果、生徒アンケートから、振り返ることの価値について生徒が実感できていることが明らかになった。

● 「話し合う活動」では、教員アンケートと生徒アンケートの比較で、各教員は工夫して発問し、考えを深めようとしているが、生徒は学習がなかなか深まっていないと感じていることが明らかになった。一単元内で「話し合う活動」をどこで設定するのがより効果的かを吟味する必要がある。

生徒アンケート



教員アンケート

